

(別紙5)

# 調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日	平成20年 2月 28日
調査実施の時間	開始 10 時 分 ～ 終了 14 時 20 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム福の里 ( 0243-23-6077 )
-------------------	--------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>遠藤糸子</u> ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 3月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	771000197
法人名	株式会社マインド
事業所名	グループホーム福の里
所在地	福島県二本松市向原265-5 (電話) 0243-23-6077
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成20年2月28日

【情報提供票より】 (20年2月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17人
利用定員数計	15人
常勤	13人
非常勤	4人
常勤換算	7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造つくり
	2階建ての 1・2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○ 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,300円			

### (4) 利用者の概要(2月13日現在)

利用者人数	15名	男性	3名	女性	12名
要介護1	0	要介護2	4		
要介護3	8	要介護4	1		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均82歳	最低	67歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みうら内科クリニック
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社員寮を改造して作られており廊下でつながれた居室は独立して住まい方もそれぞれでワンルームマンションのようである。キッチンつきリビングはこじんまりとして居心地の良い家庭的な雰囲気であった。センター方式で思いや気づきの把握・共有をし、ケアの統一を目指し運営者と職員のチームワークの良さが感じられた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	全職員に評価の結果を配布し、改善項目について話し合いいくつかは改善につなげているが、地域密着型サービスの理念については具体的な言葉でまとめあげるのは今後の課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	職員それぞれが項目の分担をし自己評価をしている。それを深めるためにもそれをもとに全職員で話し合いする機会を設けて欲しい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5)
	事業所の運営状況などを報告し、ホームを理解してもらった場となっている。定期的な開催で会議の内容を活発化させ、外部評価の結果なども議題とし改善にむけてのモニター役になってほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会があり行事や運営推進会議開催時の前後に家族会を開催している。参加したくなるような、活発な意見交換がされるような内容の家族会にし意見や要望を引き出して欲しい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入り清掃に参加するなど職員は地域に目をむけている。趣味のサークルに会場を提供したり他施設の利用者と交流会を開いたり地域に開放的である。回覧板のやり取りやホームだよりの配布などで隣近所と近い関係を築きあげて欲しい。

## 2. 調査報告書

主任調査員氏名 熊谷まゆみ

／ 同行調査員氏名 大野恒夫

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誓い、運営方針、理念などいくつかの文言が掲示されているが地域密着サービスの役割を踏まえた理念にはなっていない。	○	地域密着サービスの役割を踏まえた具体的な理念を職員の話し合いで作りに上げて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議で日々のケアについて話し合い理念に沿ったケアの統一を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事やお祭り、保育所の運動会などに参加している。町内会に入り職員は町内の清掃にも参加し、地域との関係づくりに目を向けている。		回覧板を回してもらうことや地域の情報を得る工夫もして欲しい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて職員で話し合い改善につなげている。今回の自己評価も全職員が分担して評価にとり組んだ。		それぞれの評価をみんなで話し合って深めて欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に数回行なわれていて推進会議が定着しつつある。情報交換の場でもあり委員にホームを理解してもらう場にもなっている。		2ヶ月に1回は開催してほしい。評価の結果なども議題とし改善にむけてのモニター役にもなって欲しい。
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理報告書と一緒に写真とコメントが入った近況報告書を月1回郵送している。		ホーム全体のお便りも検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話で意見や苦情を聞くようにしている。家族会があり行事や運営推進会議の前後に会議を行なっているが意見や要望はあまり出されない。		家族が運営に参加することがホームにとって大切なことであることを理解してもらう。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や計画作成担当者の移動の際は引き継ぎを充分に行い影響が少なかった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回の内部研修が定期化されている。外部研修にも交替で参加し、内容を報告し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に参加し他施設の利用者も含めた研修・交流会を行なっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶の時間や食事の時間共に過ごす時間を作っている。伝統料理や伝統行事など利用者に教えてもらいながら一緒にやっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用で思いや意向が把握されつつある。気づいた職員がそれぞれ書き込みをし共有している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作るのに本人や家族の要望を聞き職員で話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	細かく評価を書き込み期間ごとに、あるいは必要に応じてカンファレンスをやり見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にそったかかりつけ医である。家族同行の受診の際はバイタルチェック表など必要な情報を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算はとっているが重度化や終末期に向けた取り組みしていない。	○	重度化した場合、あるいは終末期何処までできるか、どうしたらできるかなどまず話し合っって欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳やプライバシーを損ねるような対応は見られなかった。個人情報の書類は事務室で鍵をかけて管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も食事の時間もばらばらで、一人ひとりが居室やリビングで思いのままゆっくりと過ごされてた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日と月曜日以外は業者からカロリー計算されたメニューと材料を購入している。調理や後片付けを一緒に行なっている。		業者メニューを一定期間経過したら、利用者の反応をみて、要望が何処まで取り入れられるか話し合っ欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望で毎日入浴している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりが野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ、縫いもの、掃除など楽しみながらやっている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	すぐ目の前の公園への散歩、お菓子や洋服の買い物、地域の催し物への参加など外出の機会がある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。玄関のドアにセンサーがついており外出を察知できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に届けて避難訓練をやっている。消防署員の講話も聞いている。		近近所や消防署の署員と一緒に避難訓練をやってほしい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された献立表で調理方法の指示もあり誰がやっても同じおいしさのレベルになる。水分摂取の把握もしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こじんまりとして、家庭的な季節感のある飾り付けがなされていて居心地よさそうなりビングであった。トイレや浴室も清潔で異臭はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの設置や写真を貼るなど居室の雰囲気は一人ひとり違っていて自宅を連想させた。居室にトイレや洗面所もついている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム 福の里

記入担当者名 管理者 遠藤 糸子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。